

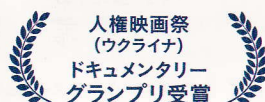
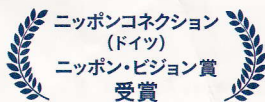


日本在住のアメリカ人監督イアン・トーマス・アッシュが  
カメラにおさめた“フクシマ”

# A2-B-C

Directed by IAN THOMAS ASH

フクシマで生きる子どもたちに、今何が起きているのか



ロードアイランド国際映画祭(アメリカ) シンシナティ映画祭(アメリカ) ぴあフィルムフェスティバル(日本) グローバル・ピース映画祭(アメリカ) ニューベリーポート映画祭(アメリカ)  
カメラジャパン・フェスティバル(オランダ) シャグリン・ドキュメンタリー映画祭(アメリカ) 台湾国際民族誌映画祭(台湾) レインダンス映画祭(イギリス)  
山形国際ドキュメンタリー映画祭(日本) 国際人権ドキュメンタリー映画祭ドキュメント11(スコットランド) 国連協会映画祭(アメリカ) ファイブ・フレイバース映画祭(ポーランド)  
広島平和映画祭(日本) CMSヴァタバラン環境&ワイルドライフ映画祭(インド) レインダンス・ベルリン映画祭(ドイツ) GCAA映画祭(台湾)  
シンライン映画祭(アメリカ) DC環境映画祭(アメリカ) グローバル・ビジョンズ・フェスティバル(カナダ) ウラニウム映画祭(ブラジル)

2013年/71分/日本映画/日本語・英語/©Ian Thomas Ash 2013 監督:イアン・トーマス・アッシュ 配給:「A2-B-C」上映委員会 [www.a2-b-c.com](http://www.a2-b-c.com)

# 世界中の映画祭で観衆の圧倒的支持を得て いよいよ日本上映決定!

日本在住のアメリカ人監督イアン・トーマス・アッシュが  
原発事故以降の福島の子どもたちを追ったドキュメンタリー

この映画は、日本だけでなく世界中の人々のために重要な映画です。  
ここに描かれている問題は、国境を越え、地球の全ての住民に関連するものです。

— チェルノブイリ博物館館長

福島での核のメルトダウン: その危険とまやかしと裏切り

— ハフィントン・ポスト (米国最大のニュースWeb)

ひとりの子どもが『ぼくたちはみんなガンになって、若くして死ぬんだ』と言いますが、  
いったい日本では何が起きているの?と恐ろしくなりました。

今だからこそ、この映画をより多くの日本人に見てもらおうことがとても重要なのです。  
私たちが何としても、子どもたちを守らなくては。

— キャサリン・ハムネット (ファッション・デザイナー)

福島のことに関しては公式発表とは別に現地の事実があります。  
子供の健康の話になると、いうまでもなく事実を知りたいのです。この映画を見れば少なくともその一部は把握できます。  
見た方はそれぞれ、住民の生活に影響を及ぼす決断を安心して行政に任せることができるかどうか、判断してください。

— ピーター・バラカン (音楽評論家、ラジオDJ)



## 2011年3月11日 東日本大震災による福島原発事故発生。

その11日後、日本在住のドキュメンタリー監督イアン・トーマス・アッシュは、福島の取材を決意する。

今福島で、一体何が起きているのか?

その事実を知りたいという一心でアッシュは福島へ向かった。

福島を訪れたアッシュはカメラを片手に町の様子、人々の様子を撮り続けた。

中でも、外国人の自分に興味津々な様子で無邪気に声をかけてくる子どもたちに、アッシュは「兄弟」としての親しみを感じるようになった。

しかし、その子どもたちに、ある異変が起きていることを知る。

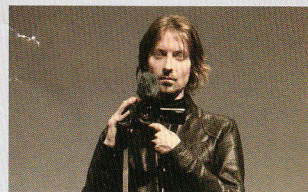
映画本編で、取材に応じた母親たちは、「県内で子どもたちを対象に行われた甲状腺検査で、A2判定を受ける子どもたちが2011年は28.2%だったのに、2012年は43~44%に増えている」と訴える。【A2】【B】【C】これは、甲状腺に発生した嚢胞(のうぼう)や結節(しこり)の大きさによる判定レベルを表している。

同時にアッシュは子どもたちをとりまく校庭や通学路の汚染除去の日常の実態もカメラにおさめてゆく。

まるで家族のポートレイトを撮るかのように愛情をもって、原発事故以降の福島を撮り続けるアッシュ。テレビでは報道されない福島の厳しい現実と、福島に住む人々の切実な訴えが、カメラを通して静かに映し出される。

果たして、子どもたちの未来は安全なのか?

それでも、私たちは、何も起こっていないと見過ごすことができるのか。



©Marie Bergé for Visions du Réel

監督: イアン・トーマス・アッシュ

1975年生まれ。

アメリカ・ニューヨーク州出身。

初めて撮った長編ドキュメンタリー「the ballad of vicki and jake」(2006年)が、スイスで開催されるドキュメンタリー映画祭 Nyon Visions du Réel でグランプリを受賞。2000年に来日して以来、日本滞在歴は13年にも及ぶ。福島第一原発事故以降に撮影した「グレイゾーンの中(In the Grey Zone)」も世界中で高く評価されている。

2013年/日本/71分/日本語・英語 監督:イアン・トーマス・アッシュ 配給:「A2-B-C」上映委員会 ©Ian Thomas Ash 2013

www.a2-b-c.com

7/5 土 ~ 7/11 金 10:00 / 14:30 特別鑑賞券 1,200 円

7/12 土 以降の上映時間は劇場までお問合せ下さい

特別鑑賞券は第七藝術劇場窓口ほか、チケットぴあ・セブンイレブン【465-529】

ローソンチケット【52604】にて7/4まで販売、ご鑑賞当日整理券と引換えが必要

【当日料金】一般 1,500 円 | 専門・大学生 1,300 円 | シニア 1,100 円 | 会員 1,000 円 ▶ 新規ご入会随時受付中!

阪急:梅田駅より電車で5分/十三駅下車西口より3分

第七藝術劇場

大阪市淀川区十三本町1-7-27サンボードシティ6F

☎06-6302-2073

www.nanagei.com 7\_gei

